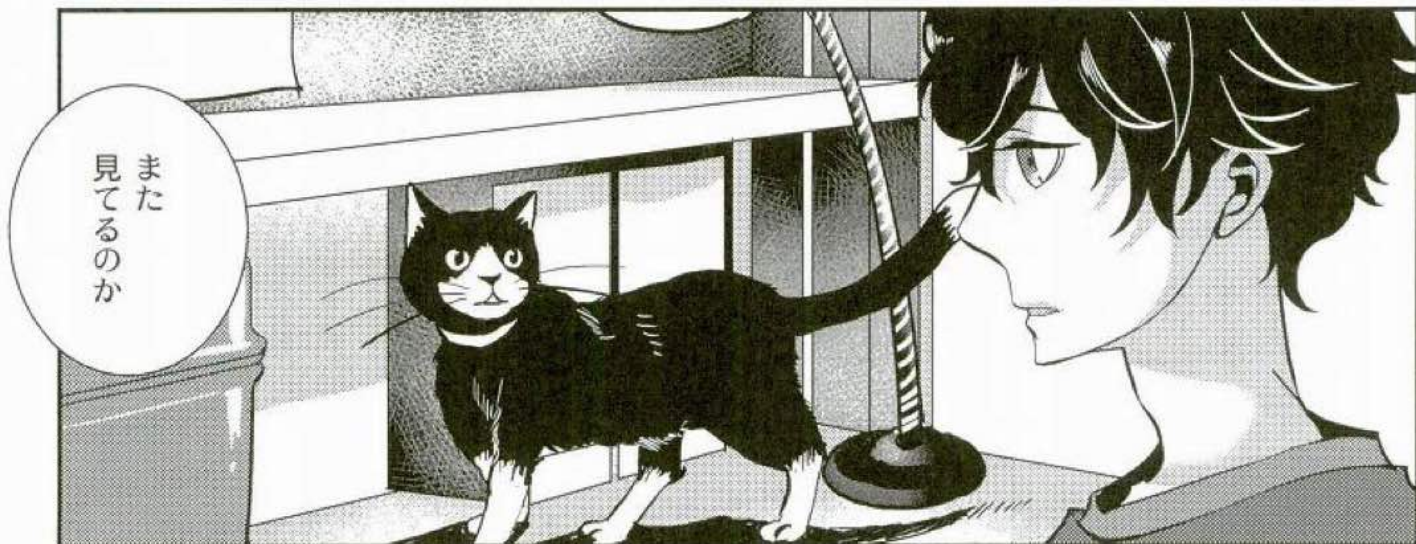
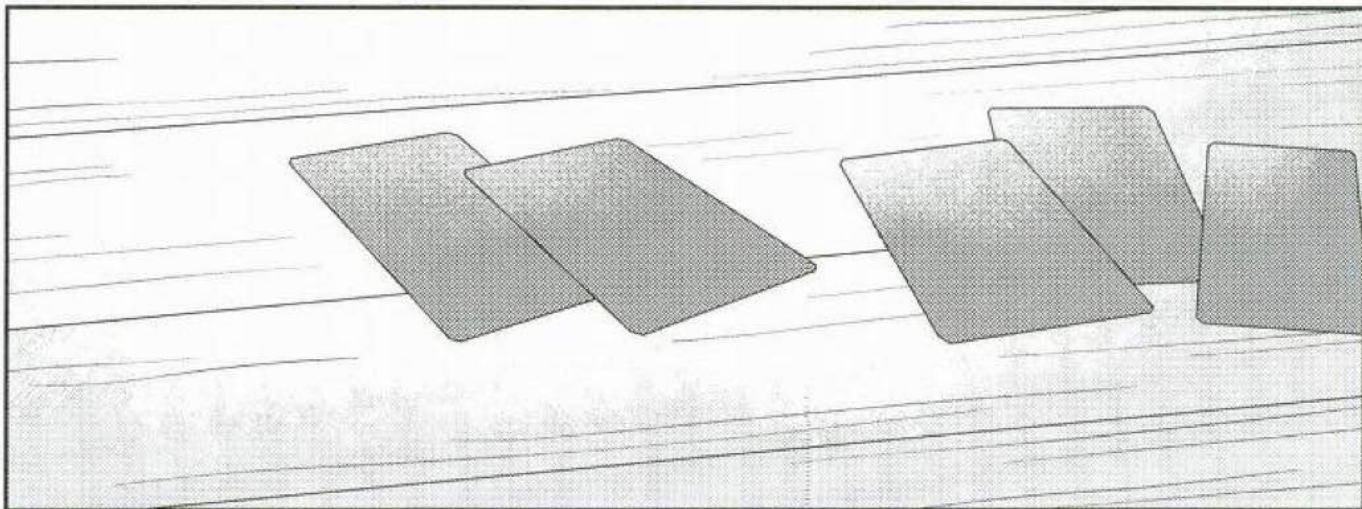




ブランカカード
のおもてうら

喜多主
R-18

Persona
Unofficial Fan Book by AUH
Yusuke KITAGAWA × HERO





綺麗だなと
思っ

祐介が模写
してくれた
カード、

こうやって
手をかざすと
ほのかに
発光するんだ



アイツ、
今は環境が
変わって調子
出ないみたいだが



開花したら
どんな作品を
生み出すん
だろうな…











は…、
出来た



ありがとう
祐介

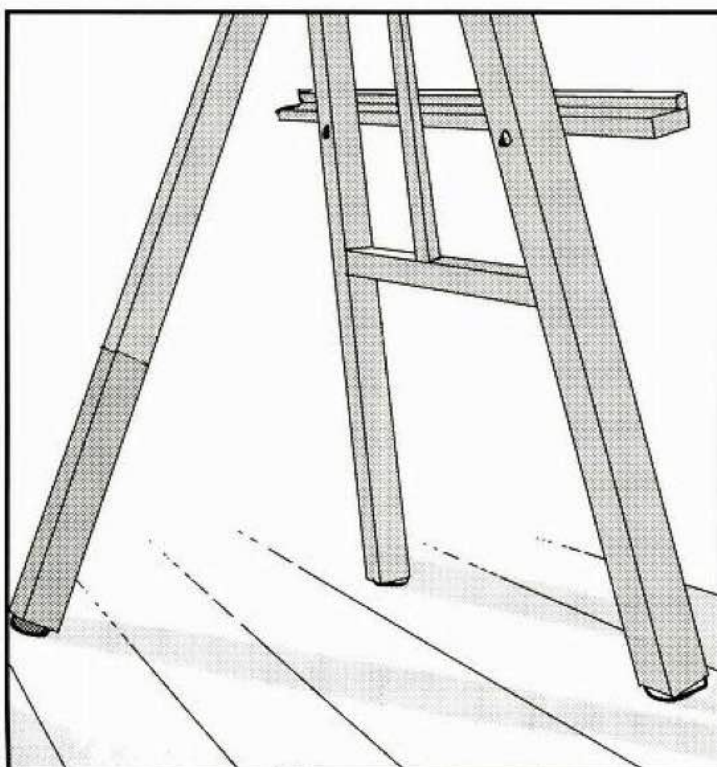
これくらい
どうってこと
ないさ

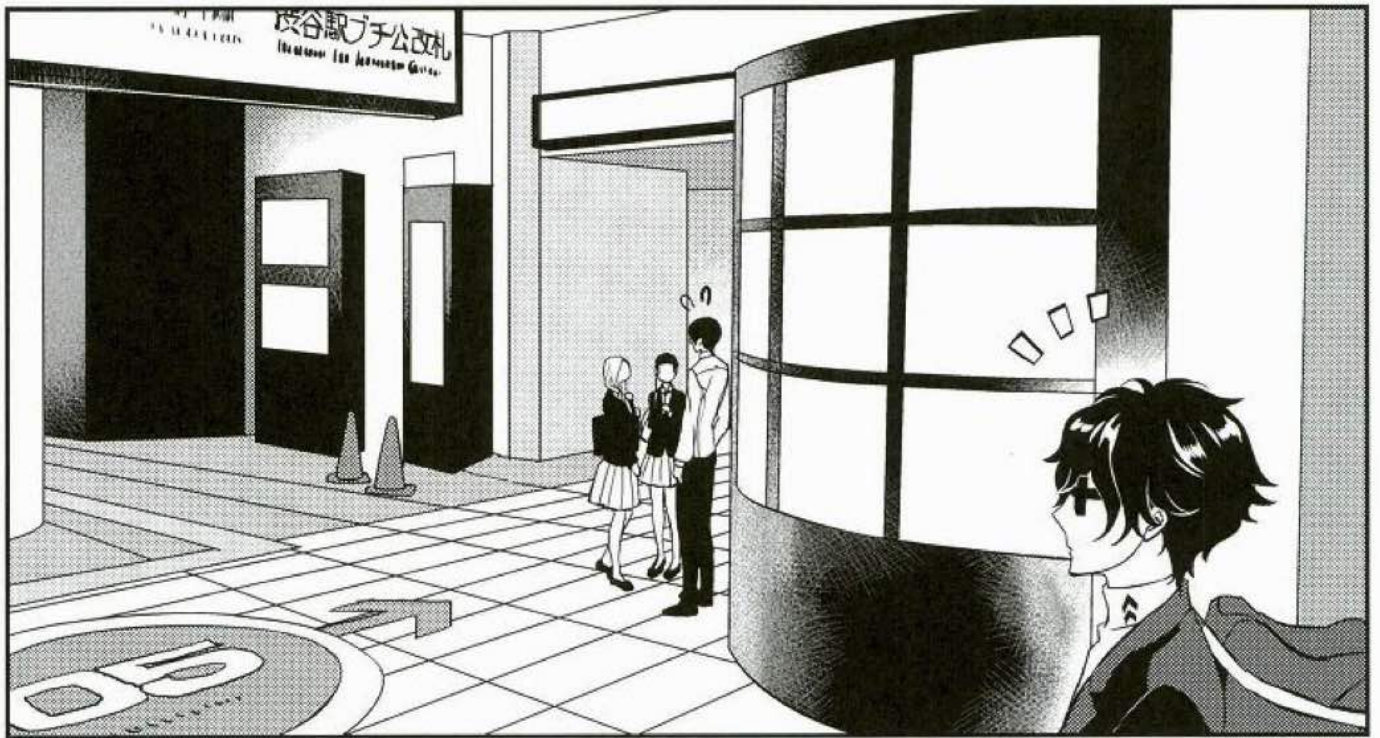


俺が
役に立つなら
いつでも
声をかけてくれ













あ、そうだ
壊れたイーゼルが
あったから
直したんだ

なに!?

カラッ
カラッ

店のメニュー黒板を
立て掛けるのに
あったものじゃ
ないかと思う

美しい…



雲は
器用だな…

使えそうか？

もし使えるなら
使ってくれ



ああ

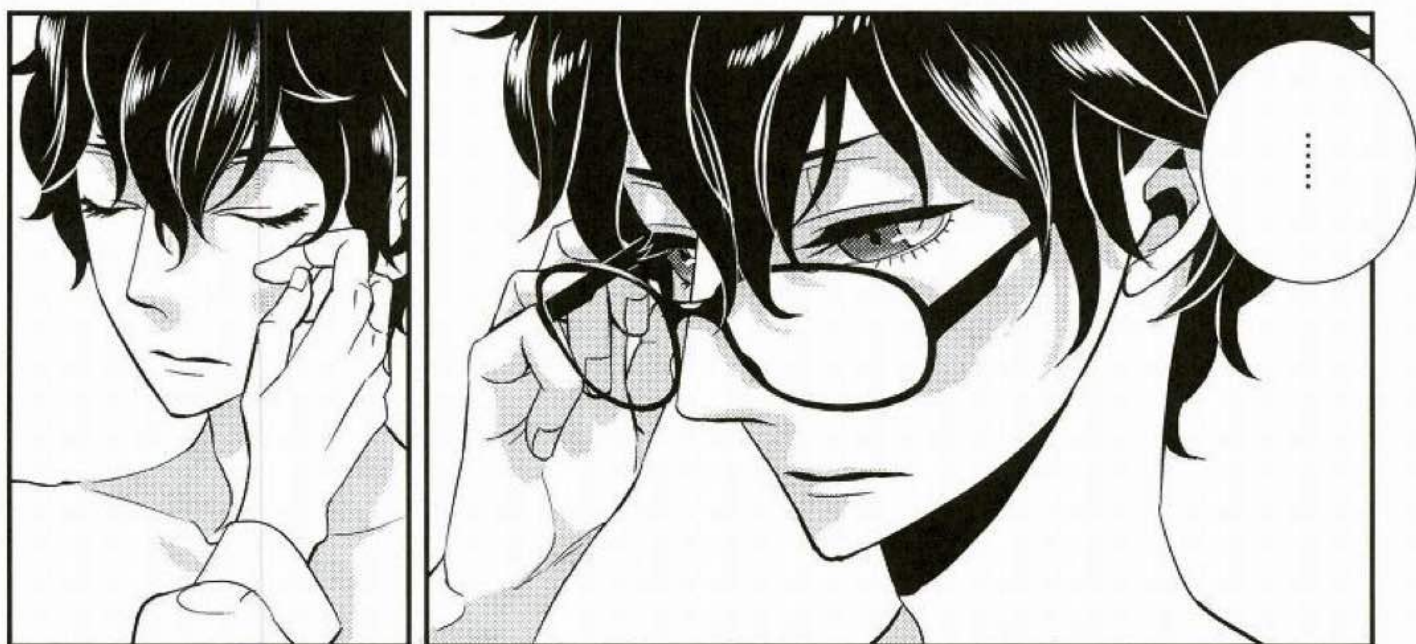
恩に着る

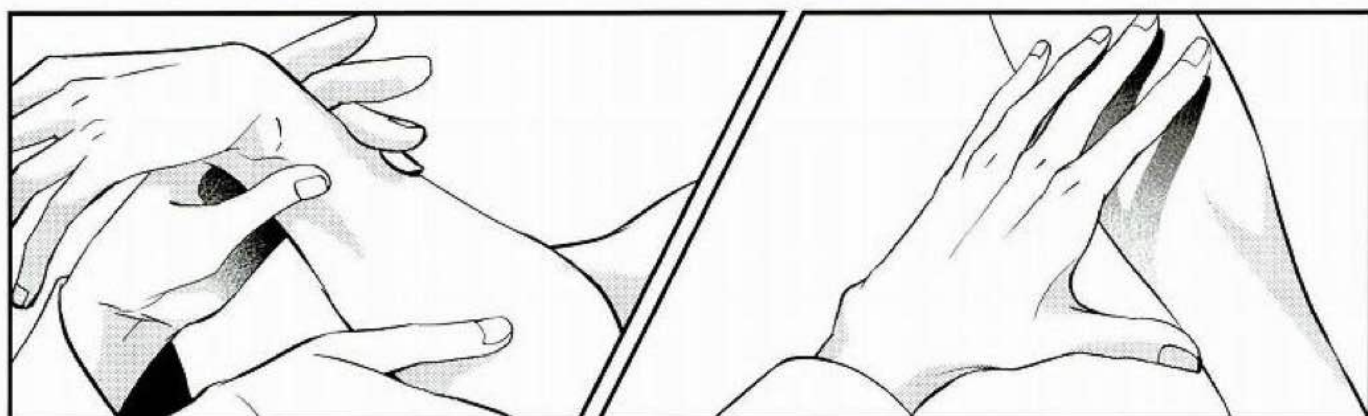


何を
描こうか…











おお…

ふん
ふん

こうなると
祐介は何も
聞こえていない…

杏のときも
そうだったな



背中見せて

へい



お前は
俺みたいな
タイプは
初めてだと
言ったけど

俺にとっても
祐介、

お前みたいな
タイプは
初めてだよ…



祐介はいつも
絵のことを
考えてる

いつも
描くことが
心の真ん中に
ある



そこまで
没頭できる
なにかなんて

そうそう
簡単に
出会えないし
見つけれ
ないんだ

だから
小さい頃から

自分の
心を捉えて
離さないものを
知っている
お前を

すごいと
思うよ

俺には
そういうのは
ないから、



そんな祐介に
憧れる…

…お前には
どんなふうに



世の中が
見えてるん
だろうって

気になってる…



…よし、よし!!

じゃ、描き
はじめようか

今までののは？

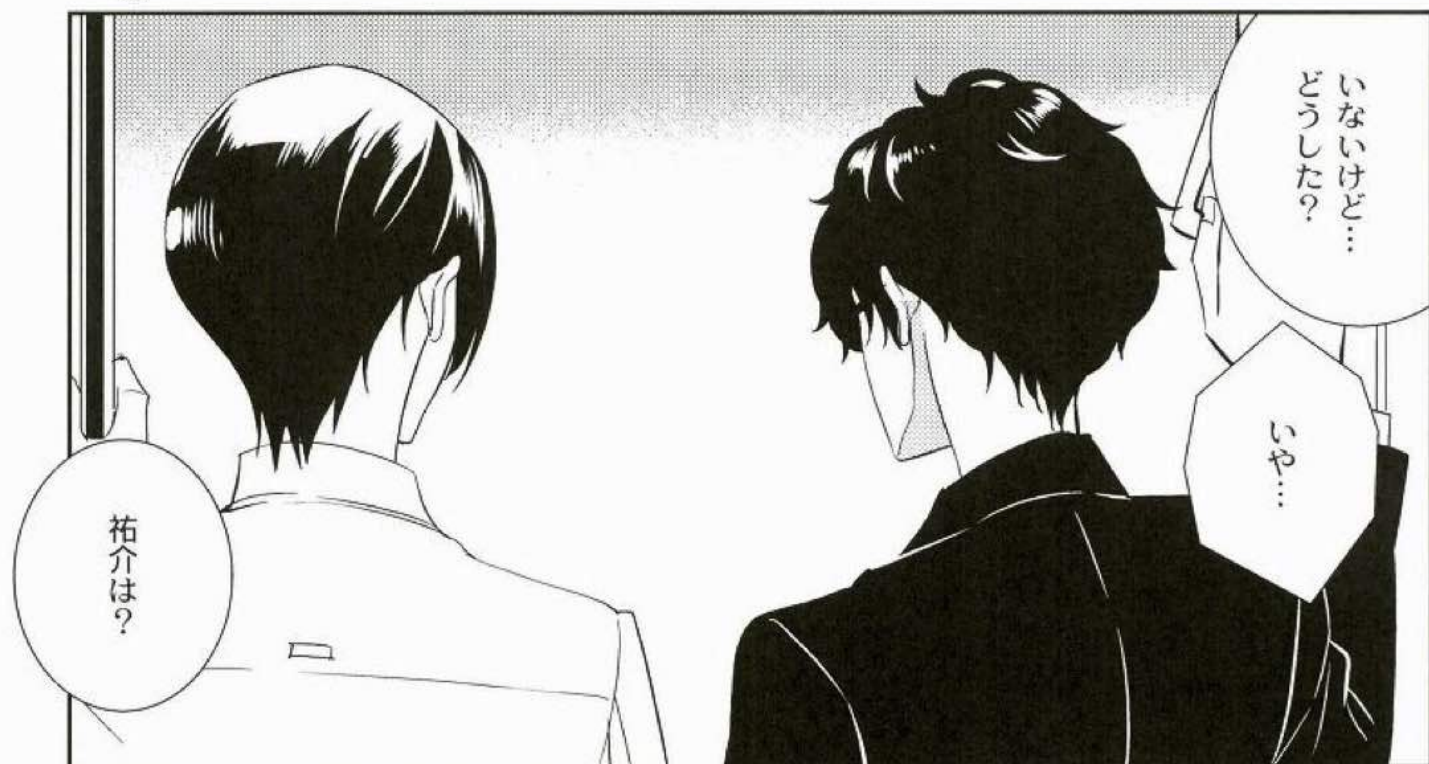
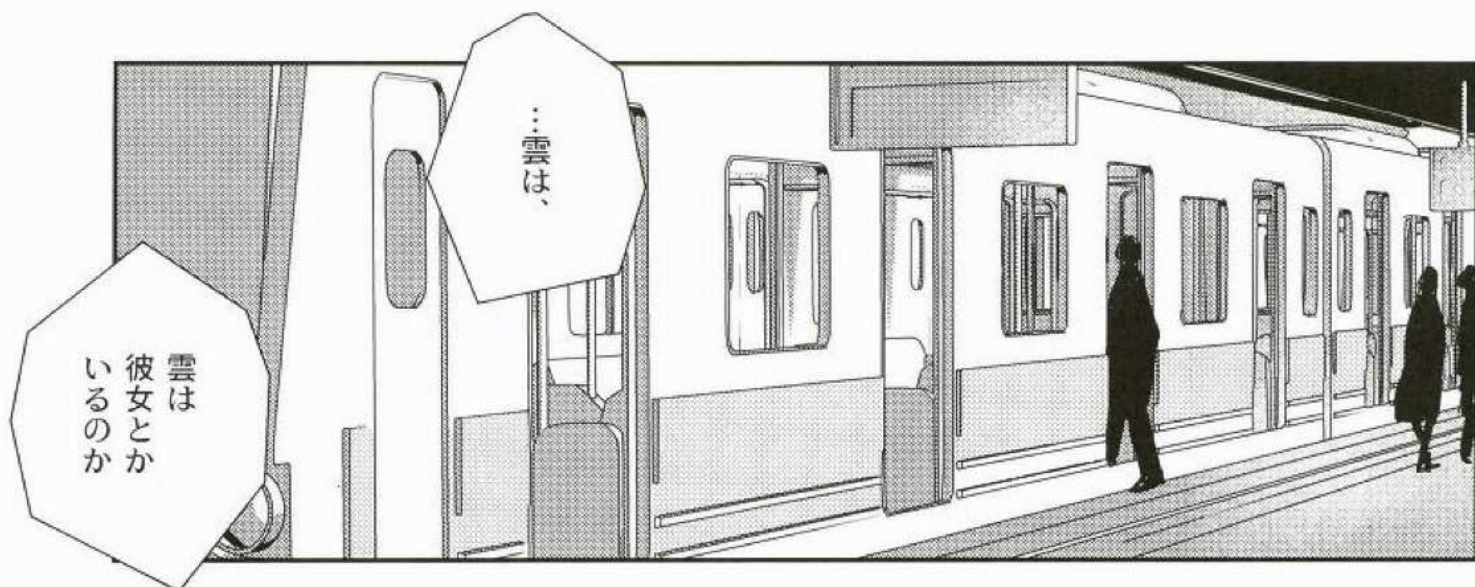
測量か…？

2時間ほど
じっとしてられる
楽なポーズで











意外

居そうなのに

俺はあまり
そういう気分にな
ったことが
なくて…

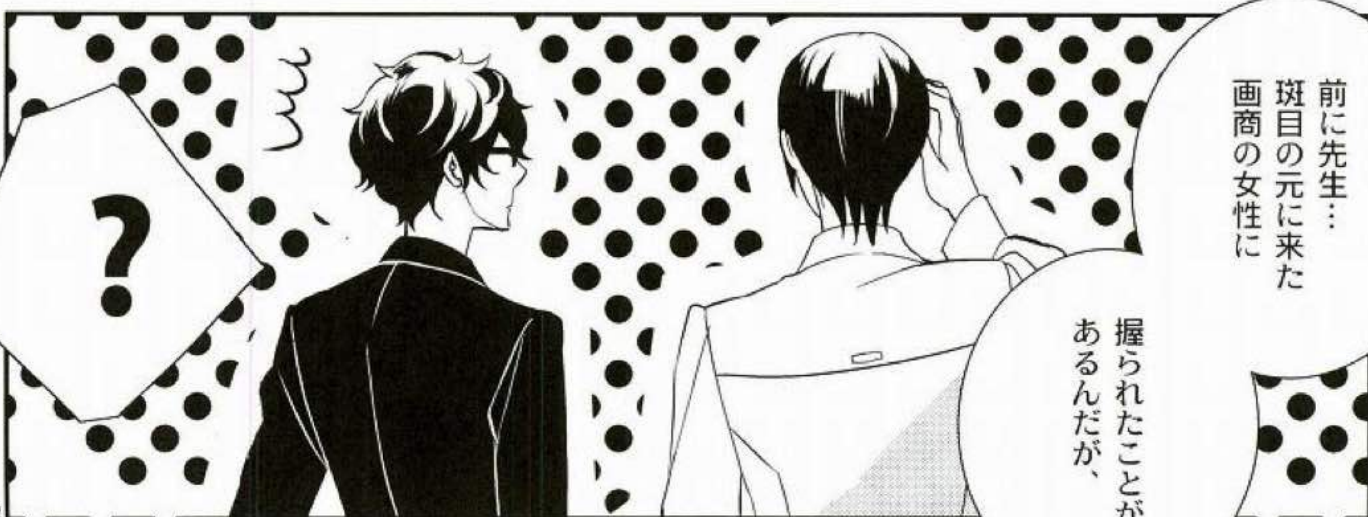


ああ…

そんなことも
あったな

…もしかして

杏に
恋愛感情は
一切ないって
言ってたのも
関係あるか？



前に先生…
斑目の元に来た
画商の女性に

握られたことが
あるんだが、



特になんとも
なくて…



なにさ？

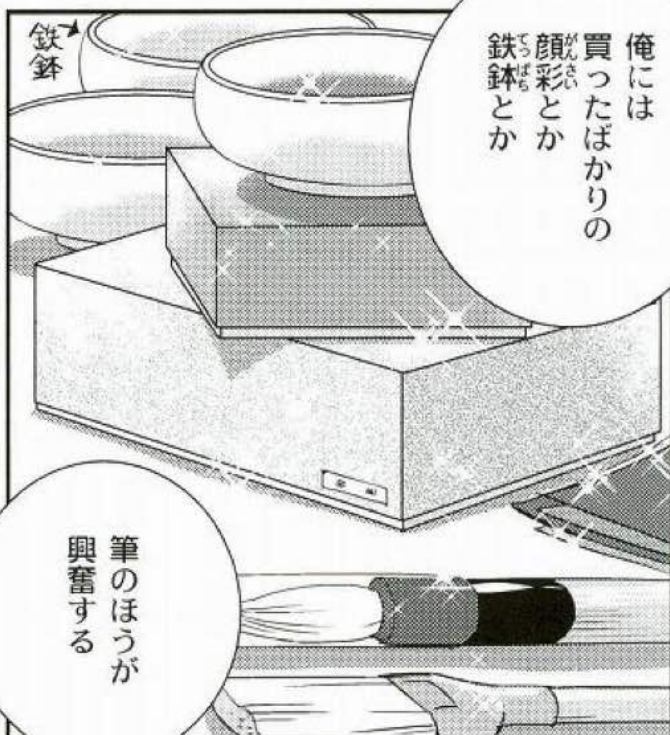
なにさ？



…

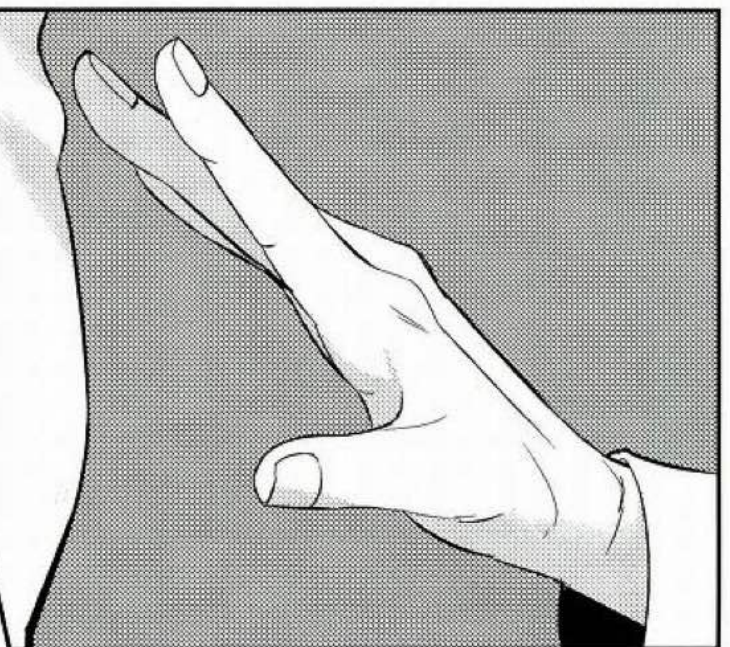
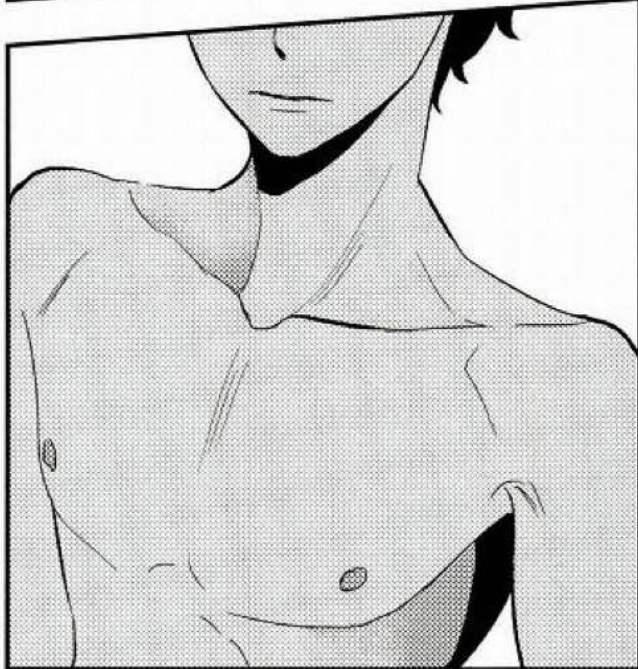


お、おう…



俺には
買ったばかりの
顔彩とか
鉄鉢とか

筆のほうが
興奮する





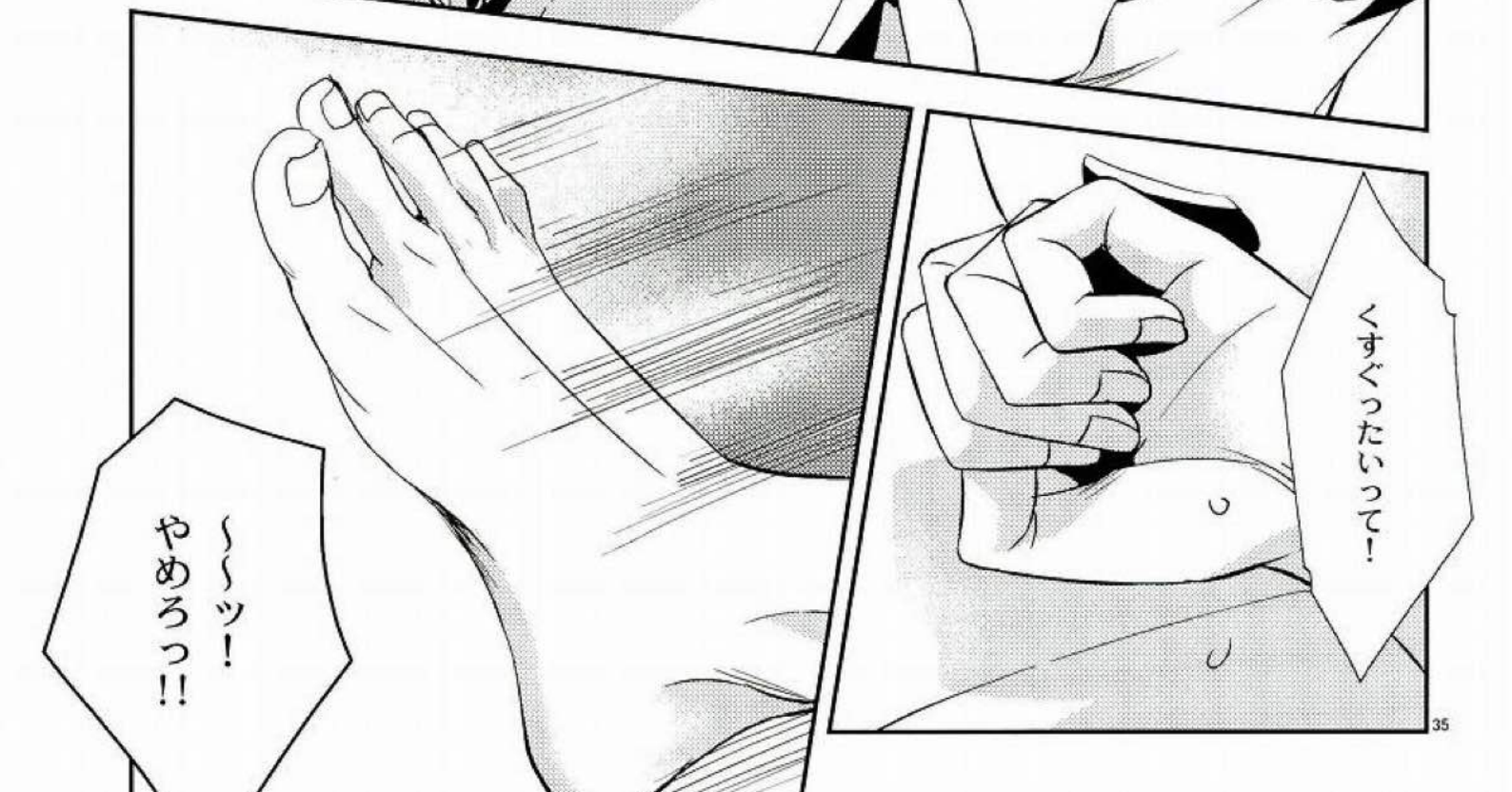
祐介、
くすぐりたい…

する



ま、待て…

…ッ!!

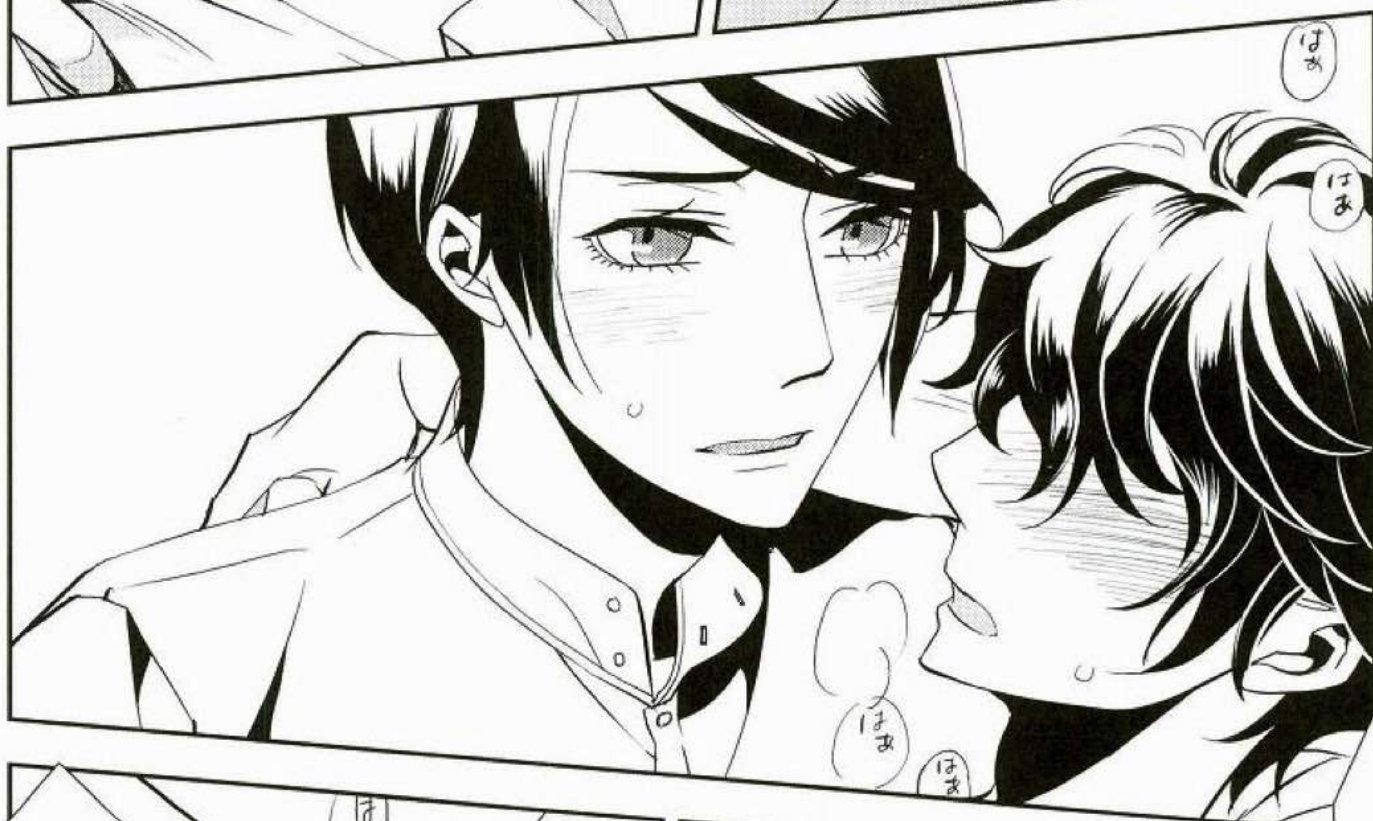


やめろっ!!

くすぐりたいって!















待って!?
俺抱かれんの!?

せめて
逆だろ!?



勃たないんじゃ…

なかったのか？

雲を
触ってたら…

それお前…

雲…

あ…っ

ひゅ…っ

っ…っ





痛いか…?

ん…

体勢
恥ずかしくて
しにそう…

そっじゃない

…意外と、

大…丈夫、

かも?

…祐介、

は…



俺は
今すぐにでも
イきたい

は

は

は

ん

は

ん

ああっ！

は

は

は

あ

は

は

—————ツリ







俺に
そんなものは
ない

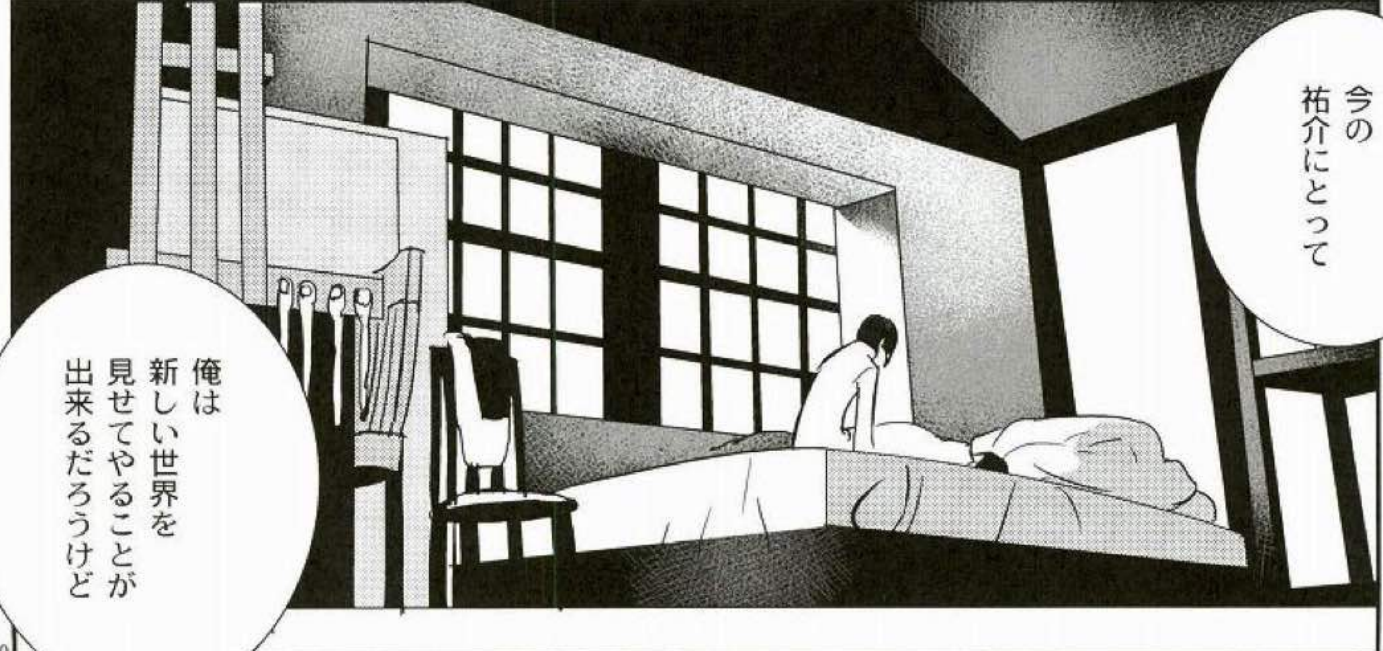


祐介は
俺みたいな
タイプは
はじめてだと

前に
言ったよな？



それは
斑目の元に
才能ある者が
集まって
いたからだ



今の
祐介にとって

俺は
新しい世界を
見せてやること
出来るだろうけど



そのときは
新しい刺激を

世界を見せて
くれる者を
探せ



でもそのうち
それが日常に

凡庸になる

そのときは…



...



：一気に
喋って
疲れた

寝る



お前は
非凡なものを
持っている

俺には
そんなもの
はない

雲...



…お前には
何もないって？



ああ…

お前にとっては
普通のことであ
っても

俺にとっては
非凡なこと
ばかりだ…





自分で
決めろ

斑目と
決別するとき

迷いを
断ち切って
くれた雲



いつだって
お前は

俺の人生に
とって
ベストだと
思う方を
指し示すんだ



.....

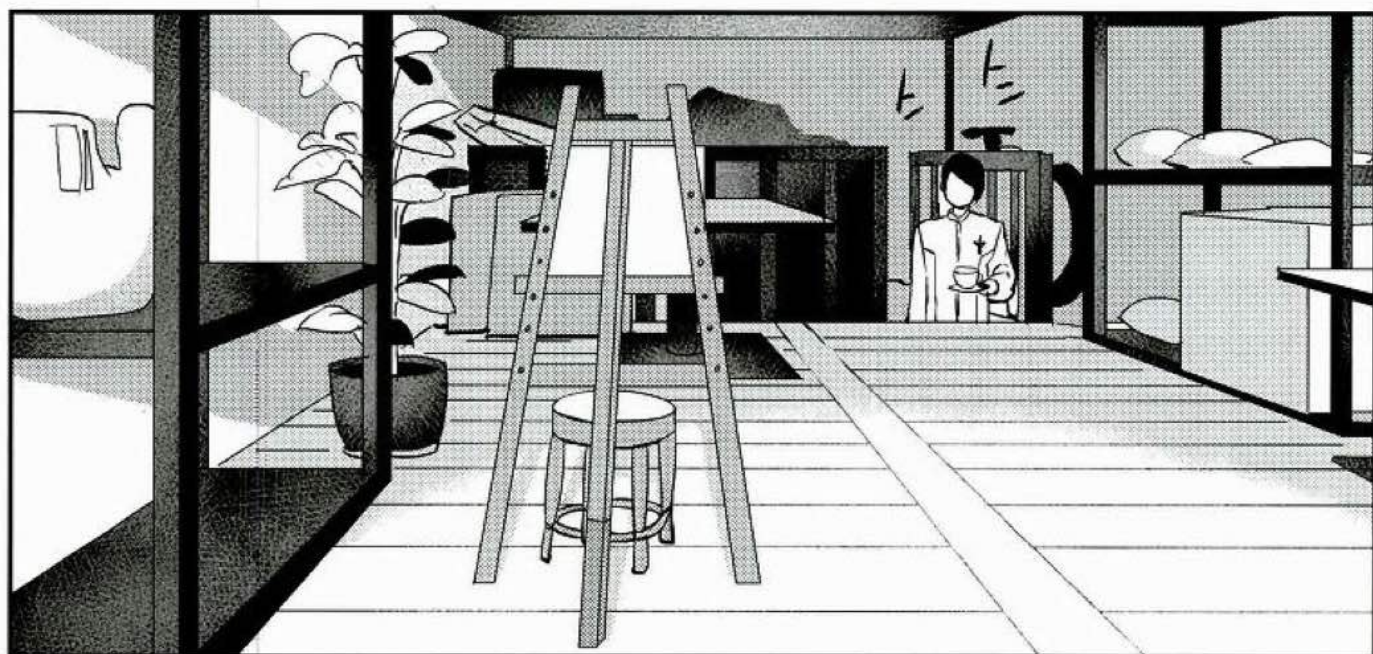
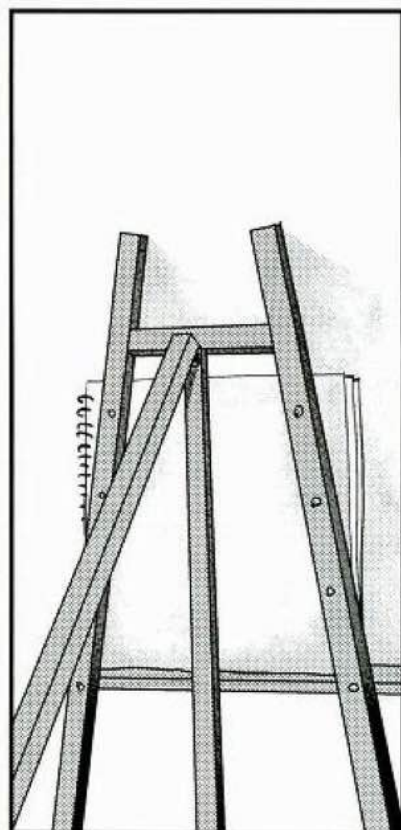
それは、

それこそが
お前の才能じゃ
ないのか……

雲、
お前自身は

そのことに
気付いて
ないんだな…





雲
起きたか

…、
帰ったんじゃ
なかったのか…

描きたいものが
あってな

ああ…

なにか
閃いた？

そんな
ところだ



雲：
昨日お前が
言ったことは
わかる

雲に飽きたら
よそへ行けと
言うんだらう？

それが
俺の為に
なるって
理由で

…いつか

雲に飽きたら
そうするさ

…それでも
俺が逆の立場
だったら

そんなことは
言えない

理性より
エゴが勝つ

たとえ俺に
魅力はなくても
磨くから

ずっと傍に
いさせて
欲しいと
言うだろう

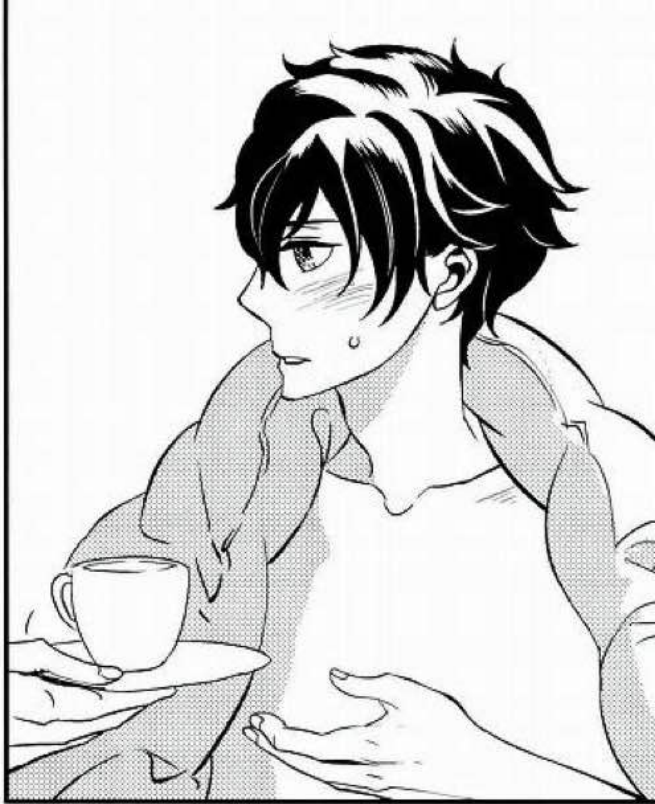
なんの
取り柄が
なくても

俺は
お前の傍に
ずっといたい…





うん、
ルブランの
コーヒーは
絶品だな



カップ
返してくる

…人に
絵を見て
欲しいとは

ずっと
思ってきたが





俺自身を
見て欲しいと
思ったのは
初めてだ

どうしていいか
わからない
ものだな…





人の気も

知らないで…

Fin.

